

13 昭和十九年六月十五日十一時より十五時まで艦載機延四百機の攻撃を受く  
父島に於ける第一回の空襲なり



14 大村火災

昭和十九年七月十九日払暁超低空にて二機来襲、大村海軍施設を攻撃南下です  
 翌二十日薄暮、兄島東側海面より超低空にて一機奇襲、大村波止場に一弾を投じて南下す、  
 此時波止場軍用倉庫のガソリンに引火次第に大火災となり、間もなく倉庫群全焼、続いて第  
 一回空襲にて焼け残つて居る大村の半分を全焼し、更に同所より隣浜に至る海岸に集積中の  
 弾薬類やガソリン入りのドラム缶に延焼、俄然大小無数の爆発が連続、火災天に押し砲銃弾  
 は付近一帯に炸裂飛散、爆音は終夜熄まず焰々、翌二十一日未明まで焼き尽す、是れを以つ  
 て要塞司令部手持の軍用資材は清瀬弾薬庫内の弾薬を除き大部分を一夜に失ふ、空襲の惨害  
 に将兵震駭す、中央は大神山、右大村の火焰、左隣は浜付近弾薬炸裂、



15 全島混乱

昭和十九年七月二条四日未明より敵機動部隊による艦載機の攻撃を受け、終日連続空襲、延五百機以上に及び、正午頃より艦砲射撃も受け夕方旅団長は左の様な司令を全島に発した、

一、 敵八日及び昨日引続き父島を攻撃スルナラン

二、 敵八八本日又八明日硫黄島二上陸シ、更ニ帝都ノ大空襲ト父島ヘノ上陸ト八企図スルナラン

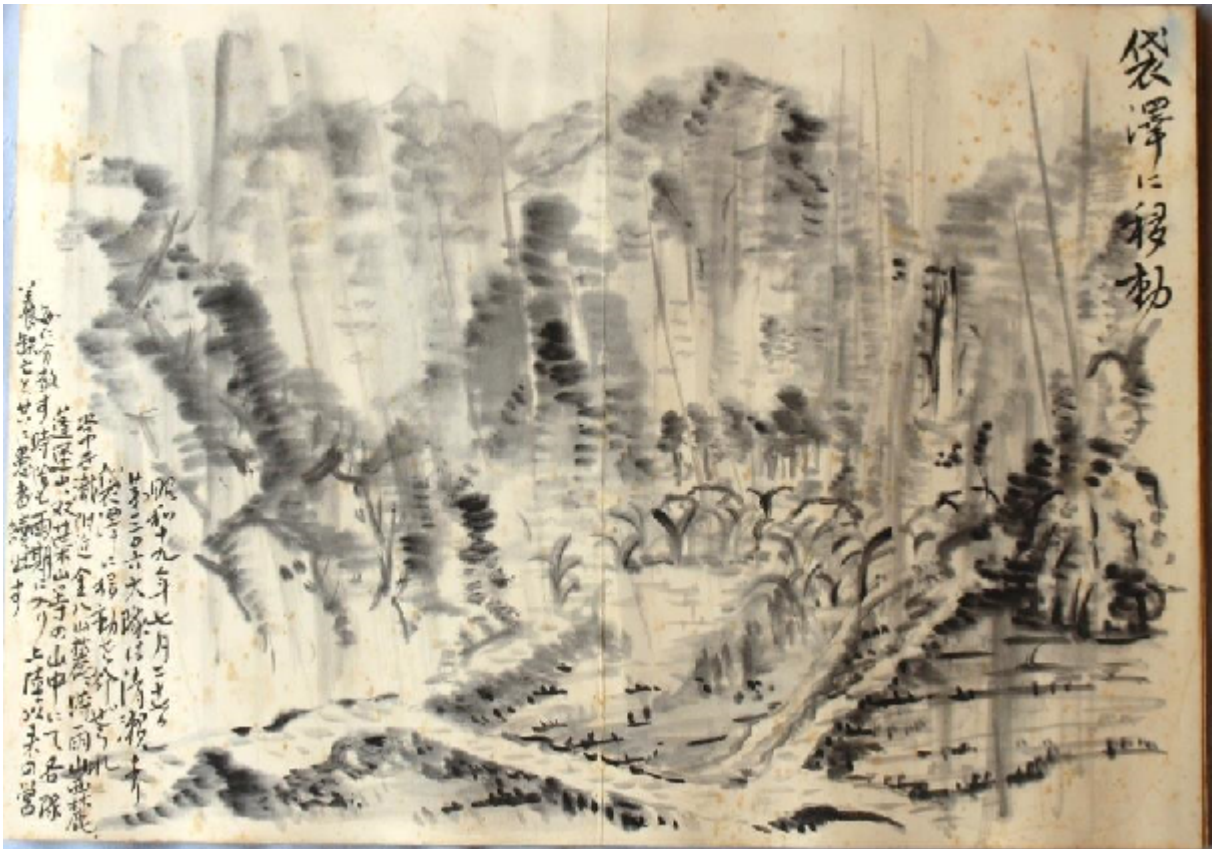
三、 以上ノ状況ニヨリ我ガ父島八地形ノ不明指揮系統ノ複雑等諸種ノ事情アルモ今ヤ立花少将ヲ中心トシテ全員一致協力父島防衛ニ当ルベキ時ナリ

夜二十時頃小港へ敵舟艦新入せり等の誤報、手榴弾、地雷等の分配等々全島混乱の極に達す



## 16 袋沢に移動

昭和十九年七月二十七日、第三〇六大隊は清瀬より袋沢に移動を命ぜられ、常世滝付近全八山麓、時雨山西麓、蓬莱山、双葉山等の山中にて各隊毎に分散す、時恰も雨期に入り、上陸依頼の栄養欠亡と共に患者続出す



17 配備決定 昭一九、八、一

中隊 廻谷

第一小隊 五月山 二七一、四高地 水上台

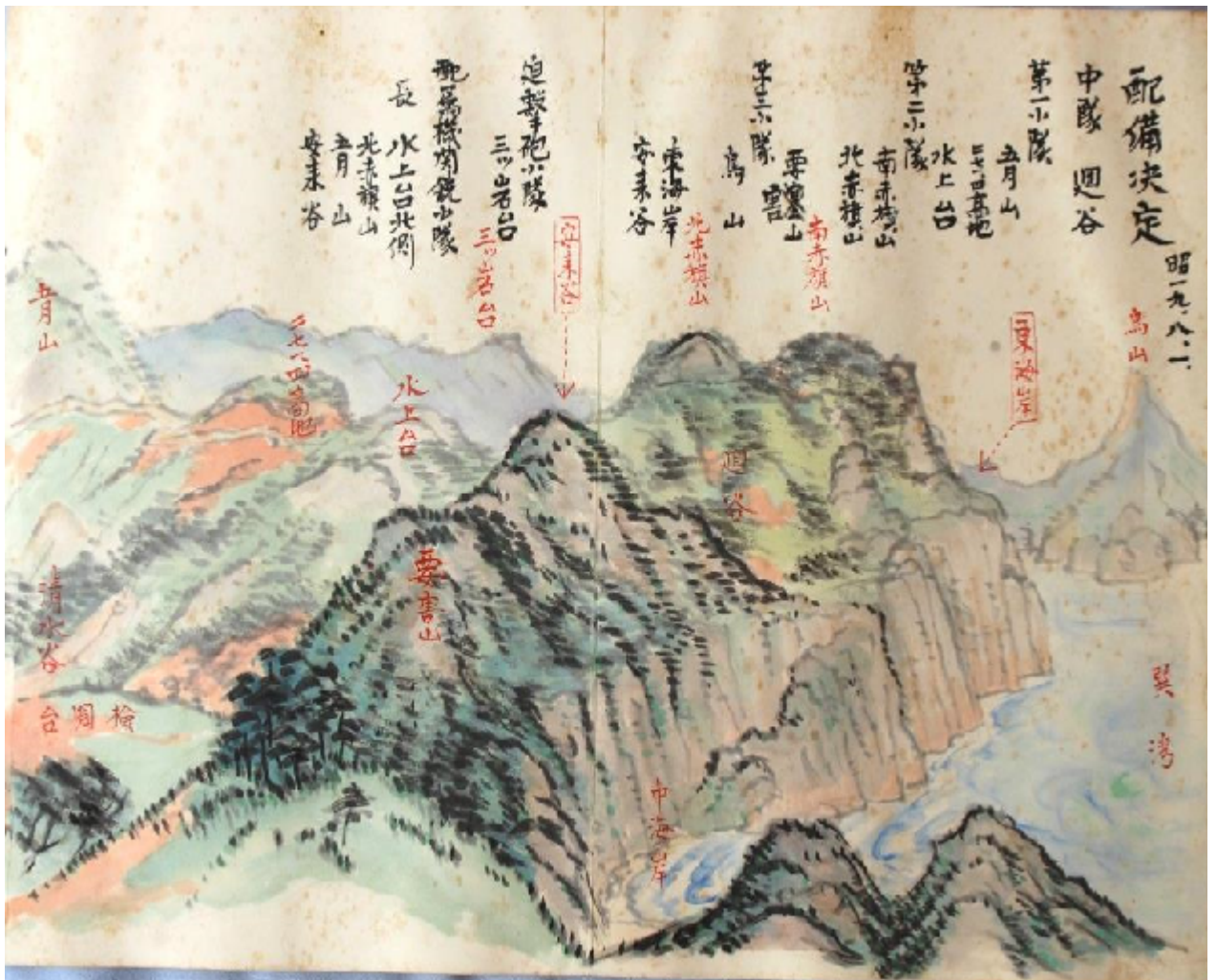
第二小隊 南赤旗山 北赤旗山 要害山

第三小隊 鳥山 東海岸 安来谷

迫撃砲小隊 三ツ石台座

配属機関銃小隊 長 水上台北側 大赤旗山 五月山 安来谷

地図には朱筆で地名を書き込む



18 (上段)二七一、四高地ヨリ西方ヲ望ム (下段)南赤旗山ヨリ遙カ母島ヲ望ム



19 岩盤洞窟 分散温存 安来谷 第三小隊第一分隊陣地

